

広報

第 98 号

2019年12月

令和元年

発行人 区長 萬浪 三郎
 編集 広報 委員会
 事務局 TEL.0795-23-4639
 世帯数 2,954世帯(野村町)
 17,232世帯(西脇市)
 人 口 7,330人(野村町)
 40,442人(西脇市)
 (12月1日現在)

のむら



おわびと訂正 広報第九十七号(九月発行分)に誤りがありました。

五ページ「忠魂碑清掃」上段中ほど

誤：本庄繁敬の書

正：本庄繁 敬(つつし)んで書す

前広報委員長・藤原和義さんに教えていただきました。つつしんで訂正いたします。

太鼓に乗って



廣田 快成

僕は、太鼓に乗って成長したことがありますが。それは、感謝することに改めて気づいたことです。理由は、太鼓を担いで下さったり、OBなのに教えてくれたりして、自分の太鼓がよりよいものになったからです。

それを学べたのは、太鼓をたたいた当日のことです。僕は裏宮に乗りまして。とてもゆれていて、心臓がふわつきました。楽しかったのですが、担いで下さった方はとてもしんどそうで、僕達のためにがんばってくれているんだと感動しました。

そしてまわりを見ると、他の乗り子たちも、汗を流して必死でたっていました。僕は、胸が熱くなって、太鼓を全力でたたき、大声を出しました。太鼓を乗り終えて、みんなしんどそうだったけど、とても楽しそうでした。

最後まで担いで下さったり、声を出して秋祭りを盛り上げてくれたりした、消防団やOBの方に感謝したいです。最初で最後の乗り子としての秋祭りは最高でした。次は、秋祭りを他の仕事で応援したいです。



井上 慶彦

僕は小学校の頃から太鼓に乗りたいと思っていました。

練習を始めて最初の頃は太鼓は難しいし、覚える事も沢山あって不安だったけど、消防団の皆様が分かるまで根気よく教え

て下さり、出来る事がどんどん増えてきて楽しくなりました。

本番初日は台風で中止になって、残念でした。二日目の日曜日はとても緊張したけど、気合いを入れて太鼓に乗り込みました。台風の影響もあり風が強く、かぶっている帽子が飛んでいきましたが、気持ち良かったです。

本番では、練習通りに声を出して太鼓を叩く事が出来て、とても楽しかったです。今回のこの乗り子をやって、自分自身とても成長できたと思います。一生に一度しか出来ない経験が出来て、本当に良かったです。

最後に太鼓をかついでくれた方々、一ヶ月根気良く練習に付き添ってくれた消防団の方々、一緒に太鼓に乗った友達、練習の送迎してくれた両親、本当にありがとうございました。



河合 陽斗

僕は太鼓に乗って、終わった後に楽しかった。また乗りたいと思いました。

それは最初から消防団の先生、白井先生、村岡先生たちが、細かい所まで、こつこつと教えてくれたから、こつこつと不安にならず、楽しくできたからです。

太鼓に乗る事は、もう最初で最後だと思っので、本番にかついでくれた人々、今まで短い一ヶ月半ほどお世話になった人々に、また来年違う子たちが来る時には、手伝いに行きたいです。

そして、これまでがんばってきた友達との記憶は、しっかり思い出に残しておきたいです。そして、太鼓に乗る事を支えてくれた家族にしっかり感謝して、これからの生活に役立てて生きて行きたいと思っています。

本当に今まで、太鼓に関わってくれた人々に感謝です。短い時間でしたが、ありがとうございました。



前川 陸

僕はこの一ヶ月半で、すごく良い経験をさせてもらえました。

なぜなら、普通は太鼓に乗れない人がほとんどだと思います。なのに僕は、色々な大人の人たちにかついでもらって、本番に叩かせていただきました。それに練習の時は、先生方や消防団の方々に支えられて、コツなどを教えてもらったりしてうれしかったです。

それに、太鼓はそんなにやりたいという思いは強くなかったけど、実際にやってみるとすごく楽しかったので、思っていたのと全然違いました。

そして本番の日は二日あるはずだったけど、一日目は雨でなくなると、二日目はますます緊張してきました。でも二日目の本番では大人の方たちが支えてくれて、緊張もけつこうほぐれました。

そして太鼓に乗ったら緊張もなくなると、初めの頃と違って、楽しくなってきました。だから、この太鼓に乗れてよかった。だから次は、かつぐ方もやってみたいです。本当に太鼓に乗れてよかったと思います。



内橋 弘佳

僕は、一生に一度しかできない乗り子を体験することができ、とてもいい経験になったなと思います。本番は一日だけだったけど、その日のために、大勢の大人の方々に約一ヶ月という期間をかけて、ご指導していただきました。そして祭りの日を成功させることができました。成功した時は、達成感とご指導して下さいました方々への感謝でいっぱいになりました。

本番では、太鼓を叩く時、「失敗しないかな」「大丈夫かな」と不安と不満でいっぱいでした。でも、そんな考えを吹き飛ばすために、「自分ならできる」「大丈夫、大丈夫」と自分をはげました。そのおかげなのか、失敗せずにやり遂げることができました。やり遂げた時には、気づけば、不安と不満が自信に変わっていました。



釘本 淳平

僕が祭りの太鼓に乗るきっかけになったのは、消防団の人に誘われたことでした。戸惑いつつも、これも新たな経験だと思い、乗ることを決意しました。

練習の期間も風のように過ぎ去り、とうとう本番になりました。これまで最初から練習してきた声出しや太鼓の叩くりズム、スピード、そして何よりも他に乗る三人との団結力。その全てがこの本番に活かせるか、いや、活かせるか。僕は抑えきれない気持ちの高揚を覚えつつ、太鼓に乗りました。

祭りが終わり、心に平穏が訪れた時、僕の頭にはふと、「もう終わるかあ」という言葉が浮かびました。そう、はつきり言うて、太鼓に乗る人と一緒にいるだけで楽しかったのです。

僕は、この経験で学んだことがありました。それは稽古が始まる前と祭りの後の僕を思い比べると歴然でした。学んだこと、それはきっと僕自身の成長から見いだせることでしょう。挑戦は大きなリスクを負うかも知れないが、その先にある成果を追い求め続けられる人になりたいと思いました。



村井 颯太

僕は、一度きりの太鼓に乗ってみて、ま
ず思ったことが、シンプルに「楽しかった」
ということでした。最初は、今まで太鼓を
見たことがあまりなかったので、あまり乗
る気がしなくて、乗らないでおこうと思
いました。

しかしある時、何も知らない僕は太鼓
に乗れるのは一度きりだと聞きました。そ
して「せつかくなら」くらいの気持ちで参
加しました。

練習が始まり、予想通りとてもしんど
かったです。毎日毎日同じことをして、ズ
ルをして休もうかなとも思いました。でも
何ももらえないのに指導してくれた消防
団の人や、消防団でもないのに毎日毎日練
習を指導して下さった二人の方の気持ち
を考えると、自分だけ何をバカなことを
しているんだと気づきました。練習では太鼓
歌とともに他の子と合わせなくてはなら
ないので、とても苦労しました。

そして本番、緊張はしなかったですが、
失敗はだめという気持ちが強くあったので、
今までで一番集中しました。自分の中では、
大きな失敗はなかったのよかったです。
が、何より、最後にはとても楽しんでた
ことにびっくりしました。

初めは軽い気持ちで参加しましたが、
今ではとても「楽しい」経験になったと思
います。消防団やボランティアで来てくれ
た二人の方、本当にありがとうございま
した。これからは、この体験を生かしてが
んばっていききたいと思っています。



大崎 羅以

僕は最初、あまり乗りたいとは思
いませんでした。なので、乗ってみるは想
像もつかなかったし、誰かが乗っているの
を見に行くつもりもありませんでした。し
かし、親から言われたので、嫌々行くこ
とになりました。

行ってみると、中々うまくいかず、歌を
覚えるのも時間がかかりました。いざ
たき始めても、みんなより遅れてしま
いました。

そんなとき、父が家で太鼓を練習する
ことを提案してくれました。太鼓が嫌だ
つたので、それまで家で練習してこな
かったけれど、遅れないように家での練習もしま
した。するとだんだんうまくなつていき
みんな程うまくなつた。率先して太鼓
に行くようになり、率先して太鼓に行く
ようになり、率先して太鼓に行くよう
になりました。この後、練習を積み、ついに本番を迎えました。

本番は、これまでにない緊張で、と
てもたたきにくかったです。でも宮入りなども
成功したので、よかったです。これまで成
功させられたのは、消防団の方々のお
かげです。ありがとうございました。



前原 陽斗

僕は太鼓に乗って、これまでの学びや経
験にプラスする事ができたと思います。

まず、太鼓を叩かず歌だけの練習の時
まったく覚えられず自信がなく、声
が全然出ませんでした。しかし、先生
たちが横で暖かいサポートしてくれ
たので、自信が出てきて、声も徐々
に出てきました。そして、歌を全
て覚える事ができたので、その時
は素直に嬉しかったです。次に、
練習用の太鼓で叩くと、手と口

二つを同時に動かすのがとても難
しかったです。でも家で練習する事
によって、パートにできるよ
うになりました。

そして、稽古揚げではいつも通
り太鼓を叩く事ができてミスも
しなかったのよかったです。でも
その次の週には、熱で二週間行
けなかつたので、正直心配で緊
張していました。でもみんなと
練習した時の感覚を思い出して、
本番に挑みました。

歌は、パートで覚えなかつた
けれど、何回も上げてもら
う事ができたので、とても
嬉しかったです。この経験
をいかして、今後も頑張り
たいです。



山根 琉偉

僕は小六の時から太鼓に乗りたいと思
っていました。中一になると太鼓に乗
ると聞き、家族に相談し、応募し
ました。今回の応募は十一人と聞
き、頑張らないといつぱい太鼓
に乗れないと思って、ますます
気が入りませんでした。

初めに歌の資料をもらったときは、
意味の分からない言葉だつたり、
声の大きさをどうで難しかった
けれど、毎日二時間、夜に公民館
で二ヶ月間練習し、他のみんな
も上手になり、どんどん太鼓に
乗るのが楽しくなりました。

今年が初日が台風で中止になつて
しま、とても残念でした。初日は
家の近くを通る予定だったので、
すごく悔しかったです。二日目は
台風も去り、やっと太鼓をた
たける時が来ました。最初は乗
れなかつたけれど、少し時間がた
つてから交代の時に乗り、乗
れる時が来ました。

大人の方がたくさん担いでいる
上で、しっかり楽しく太鼓をた
たけました。野村町を回り、昼
に公民館に帰ってきました。公
民館で昼ご飯を食べた後に名
前を呼ばれました。その後公
民館で、子供や大人がたくさん
いる中で乗って、すごくうれ
しかったです。

それから順番に交代して、宮入
りをする神社に向けて進みまし
た。神社では他の地区の太鼓も
集まっていたので、すごく盛り
上がっていました。

宮入りの一番盛り上がる所で
名前を呼ばれ、乗ることができ
ました。一番最後の盛り上がり
の中で、僕もさうに気が入り
必死になつて頑張りました。

僕はこの一ヶ月間の太鼓練習
や本番を通して、とてもいい
経験ができました。僕には弟
がいます。弟にも人生で一回
の太鼓に乗ってほしいです。

祭りは一日しかなかったけれど、
すごく楽しかったです。教えて
くれた消防団の方々には、本
当にありがとうございました。



野村 奏志

僕は小さい頃から、秋祭りの太鼓
を見るのが好きでした。だから、
中学一年生になったら必ず秋祭
りの太鼓に乗ると決めていま
してました。そして、僕の秋祭
りは九月に始まりました。消防
団の方に歌を教わったとき、始
めて太鼓をたたいた時は、と
てもうれしかったです。毎日地道
な練習を積み重ね、ようやくし
つかりたけろうになりました。

今年の秋祭りは台風のため、一
日目が中止になりました。とても
残念でしたが、その分も二日目に
全力でたけろうと、よりいっ
そう太鼓をたく手に力が入り
ました。乗り子と担ぎ手の息の
あった「宮入り」は、とても感
動しました。消防団や担ぎ手
の方々には、大変感謝してい
ます。

太鼓を乗り終えた今、次は太鼓
の担ぎ手となつて、野村町の秋
祭りを支えていけるような人
になりたいと思います。野村
町の素晴らしい文化が、これか
らもずっと受け継がれていっ
てほしいです。

太鼓巡行随行記

◆異例の展開

今年の秋まつりは、異例の展開となりました。大型の台風・十九号の影響を受け、各地のイベントが次々に中止される中、野村の秋まつりも十二日の宵宮を中止し、十三日の本宮のみを開催することになりました。

なぜ十二・十四日と順延するのではなく、十三日1日のみの開催となったのでしょうか。萬浪区長にお聞きしました。

和布・高松・板波の区長と協議しましたが、「本宮の日に宮入りするのが筋だ」という意見が多数を占めました。野村は範囲が広く、一日では回りきれない、という事情も訴えたのですが・・・

また消防団としても、秋まつりを日・月にやると、太鼓のかたづけを平日にしなければならず、それは避けたいということでした。

以上のことを考え合わせ、本年は一日だけでやるという結論に至りました。

◆太鼓巡行午前の部

八時、わずかに小雨の残る中、出立。乗子十一名は近年まれに見る多さです。担ぎ手は消防団OBなど約六十名でした。

この日は一・二区をまわります。乗子子は二区が一名だけで、後は三区から七区の出身なので、地元を回れないという寂しさがあります。差し上げも、初日は区長宅・三区から七区など計七回ありますが、この日は、宮入りを除けばお党の家と西脇市駅前の三回だけです。それでは乗子が多いのにかわいそうだということで、急遽三軒のお宅に差し上げの追加をお願いした、とのことでした。

バス道に面した二軒では、しばらく交通を止めての差し上げとなりました。

曇り空で、台風の余波なのか、時折り強い風が吹きます。太鼓を停めて休憩すると、肌寒さを感じるほどです。十二時、公民館に帰着しました。



十二時、子供神輿も勢揃いして鏡割り。祝い酒が振る舞われました。

◆太鼓巡行午後の部

十二時二十分、太鼓出立。野村橋で和布の太鼓を出迎えます。橋の上で、棒鼻を突き合わせる恒例の儀式が行われました。

和布を先導して石上神社に向かいます。岩井橋で板波の太鼓の出迎えを受けました。ここでも棒鼻を突き合わせます。神社裏の広場に四町の太鼓が勢揃いしました。

◆馬駆け神事

神社正面の県道に出て、馬駆け神事の写真を撮りました。馬も騎手も、明石の乗馬クラブにお願いしているとのことでした。神社前の道を何度か往復します。紋付・袴姿の騎手は、例年と同じ人ようです。最初はゆつくりと、しだいにスピードを上げ、最後は全速力で駆け抜けました。

◆宮入り

通行止めを維持したまま、宮入りです。今年も野村・和布・高松・板波の順です。他が三回の差し上げに対し、野村は五回。途中、担ぎ手の一人が足を取られて倒れ、はっとしましたが、無事脱出しました。

宮入りですんだ町から、乗子がお父さんに肩車されて境内の祠を順に回ります。他町が小学生なのに、野村は中学生なので、お父さん方も苦しそうです。「えっ、まだ回るの」という声も聞こえました。

ひとしきり休んだ後、神社裏広場で差し上げ。他町はやはり三回ずつですが、野村は何と十二回！三回目ですんだところで「十二回！」という声がかかり、見ている方もドキッとしました。

◆帰り道

まず高松が帰るのを、板波が板波橋まで見送ります。次に和布・野村・板波の順に出発。

岩井橋で板波の見送りを受けます。棒鼻を三回突き合わせました。最後は和布を野村橋まで送り、やはり棒鼻を突き合わせます。岩井橋でもここでも、「では、また来年」というあいさつが交わされました。

◆消防部長・多鹿貞規さん

おかげ様で町民の皆様のおかげで支えをいただき、秋まつりは盛大に終わりました。ありがとうございます。お礼申し上げます。

一日だけの開催でしたが、楽しく取り組むことができ、一生の思い出になるいいお祭りができました。

来る令和二年も、今年と同じくよろしくお願ひ申し上げます。

優勝しました！ 壮年野球



さる十月二十七日、十一月三日に行われた第六十八回西脇市民体育大会町対抗壮年野球大会に参加してきました。

参加チームは七チームと少し寂しい感があります。野村町は二年振りの優勝を目指しています。

初戦は大木町、序盤から打線が相手投手を攻略して着実に加点して行き、また先発の七区大嶋君、二番手二区阿江君の好投で、九一二のスコアで勝利です。

翌週の準決勝、相手は高田井町、好投手のいる難敵です。初回に二点を先制されて心配しましたが、その裏相手のミスにつけてこんで挙六点！優位に試合を進めることが出来ました。その後は大嶋君、阿江君と相手投手とのピリピリした投手戦になりましたが、序盤のリードを守り切り七一二で勝利！決勝進出です。

いよいよ決勝戦、相手は戎町。先発一区の藤原成児さんと相手投手との投手戦となりましたが、先にこちらのミスで点を先制され、苦しい展開に。さらに次の回もノーアウト満塁の大ピンチ！

ここでリリーフした四区高崎君が見事に〇点に抑えて流れをつかみ、その後四点を取って逆転！その後は大嶋君が大車輪の活躍できっちり抑えて、四一の逆転勝利で優勝しました！

一区阿江君、四区橋詰君、四区高崎君、七区大嶋君が、それぞれ優秀選手で表彰されました。平均年齢五十歳、ケガ人が出たなか、選手の頑張りで優勝出来たことは非常に嬉しく思いました。

最後に、参加に対して支援していただいた萬浪区長には心より感謝いたします。

ありがとうございます。

いねいさのが

八坂神社 鎮守の森

大きな異変

八坂神社の鎮守の森に大きな異変が起きています。

発端は二〇一四（平成二十六）年、ある事情により、桜の木など十本を伐採したことでした。防風林の役目を果たしていた樹木がなくなつたため、内部の木々が風の影響をもろに受けるようになりまして。

その結果、二〇一七（平成二十九）年の台風で、倒木や枝折れなどの被害が出ました。それを伐採したことで、さらに風が入る→倒木が増える→土壌が流出し、



根がむき出しになる→さらに倒木が増える、という悪循環に陥っています。

このままでは、そう遠くない将来に鎮守の森が維持できなくなる、倒木で社殿が損壊するなどの恐れが出てきました。

森林組合見積もり

本年一月、北はりま森林組合に「境内保全工事施工計画書」を発注しました。その結果示されたのが、次のような対策です。

- 一、危険木を伐採する
- 二、表土の流出防止と土壌の保全を行う
- 三、植林を行う
- 四、玉垣に一部傾いている個所があるため、急傾斜地にかご枠で土留めを行う

以上に要する費用は四四〇万円（消費税含む）です。

対策会議開催

九月四日（水）夜、公民館で八坂神社の対策会議が開かれ、町役員、老人会、宮守など二十二名が参加しました。

町より、経過説明と森林組合の計画書についての説明がありました。次に、対策として三つの案が示されました。

A案…このまま推移を見守る

長所…費用がかからない

短所…将来に大きな不安が残る

B案…必要最低限の伐採にとどめる

長所…費用が安くすむ

短所…将来に不安が残る

C案…上記森林組合の計画を実施する

長所…安定的に鎮守の森を維持できる

短所…費用が高い

主な意見

*C案はプロが示した判断だから、重視

すべきだ。

*机上の空論ではだめだ。現地を実際に見て考えるべきだ。

*何が一番危険なのか。倒木か玉垣か、何を優先すべきなのか。

*今すぐ危険ということはないが、このまま放置はできない。放っておいて、よくなることはない。

*補助金（二四〇万円）が使えのならば、町の負担は二〇〇万円ですむ。今すぐやるべきだ。

*毎月一回境内の掃除をしているが、これ以上木を切ると、神社の体をなさなくなる。また、光山稲荷の鳥居も傾きかけている。

*広報などで、現状を広く知らせるとともに、気運を盛り上げる必要がある。

*長年放置してきた結果だから、この際、抜本的な対策が必要だ。

*石上神社は宮総代がいるが、八坂神社にはない。区長が代表を兼任しているだけだ。役員の任期がすんだら、さよならでは困る。誰が、どんなメンバーで進めるのか、恒常的な委員会が必要だ。

*八坂神社での行事は、祇園祭、年末年始祭灯、十日戎、初午だけで、十二月から二月に集中している。これだけの金をかけて整備するのだから、もっと使う工夫をしたい。たとえば、秋まつりの太鼓と神輿の出立を八坂神社からにすることができないか。

合意事項

以下のような内容が合意されました。
一、C案で進める（補助金申請の準備も進める）

二、広報で町民への周知を図る

三、広報発行後、現地説明会を、森林組合を講師に招いて開催する

文化祭を終えて

文化部長 徳岡 愛裕

昨年・今年と、野村町公民館で文化部長を務めました。

昨年度は、野村町文化祭に参加するのが初めての経験であったため、分からないことだらけで、他の役員さん達にも不安な思いをさせてしまったのでは...と反省しております。

でも、役員の皆さんそれぞれがとてもしっかりと参加していただけたので、大きなトラブルもなく、無事に終了させることが出来ました。とても感謝しております。それに、野村町の皆さんにもたくさん出展いただけ、盛大に行うことが出来ました。

また本年度は昨年にもまして、二〇〇点以上の出展がありました。

本当に皆さまのご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

公民館サークル案内

木工クラブのみグリーンスポーツハウス

名称	日時	代表者
詩吟	一・三火曜 19時30分	金田 隆敏
パソコン勉強会	毎週木曜 19時	清家 京子
気功講座	二・四土曜 10時30分	前川貫治・よし美
木工倶楽部	一・三日曜 9時~16時	原田 昇
毛筆サークル	二・四土曜 9時30分	丸山 貞夫
野々華の会	第二金曜 19時30分	熊本千代子
茶道教室	一・三土曜 9時30分	井上 浩代
カラオケ	一・二・三火曜 13時30分	藤原 信子

見学・入会希望の方は公民館までお問い合わせください。

笑顔

しばざくらハロウィン ・花いっぱい 清掃



しばざくら
ハロウィン



スタジオビー



スタジオビー



銭太鼓



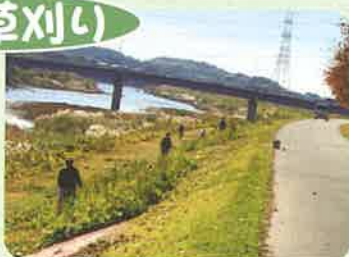
愛あい会



野々華の会



河川草刈り



花いっぱい



公園清掃

一区



七区



イルミネーション





野村町の

秋まつり・敬老会・いきいきサロン 公園

秋祭り



太鼓組み立て



馬駆け神事

鏡割り



裏宮



乗り子勢ぞろい



交通整理



消防部長さん



去年の乗り子



宮入り

いきいきサロン



まちづくり計画 再編会議

☆第八回☆(九月十一日)

まちづくりアンケート

七月に実施されたまちづくりアンケートは、一六一一通の回答が寄せられました。回収率は実に八十二・八パーセントでした！。

アンケート集計結果

⑤あなたは野村地区に住んで何年ですか

- 二十一年以上 六十一パーセント
- 十一年から二十年 二十二パーセント

⑥野村地区は住みやすい地域だと思いますか

- 思う 六十八パーセント
- 思わない 四パーセント

*住みやすいと感じるところは

- 買い物など日常生活に便利 九七・五
- 自然環境に恵まれている 五九・三
- 通勤・通学に便利 五三・八

*住みにくいと感ずるところは

- 通勤・通学に不便 一五・〇
- 買い物など日常生活に不便 一一・四
- 土地柄や住民が好きでない 八・七

⑦これからも野村地区に住み続けたいと思いますか

- ずっと住み続けたい 五十四パーセント
- しばらくは住みたい 十八パーセント

⑨自治会の必要性について必ず必要

- ある程度必要 二十二パーセント
- 必要 五十六パーセント

⑩自治会に対する考え方

- 参加はするが役員は遠慮したい 四七・八
- できるだけ参加したい 三三・三
- 役員のみ手を増やす方法 一九・一

⑪役員のなり手を増やす方法

- ネットやスマホを活用する 四六・八
- 業務を分担する 三九・六
- 報酬を支払う 三三・五

⑫参加したい地域活動

- 防犯活動 二二・九
- ふれあい活動 二六・四

美化活動
⑭野村町で魅力のある場所

- みらいえ 一〇五・五
- 学校が多い 六八・九
- 桜並木を含む加古川の流れ 四六・一

自由記述

ここまでの質問に関する自由記述では、区費が高い、区費の必要性を疑うなど、区費に関する疑問の声が多く見られました。

参加者からは、「役員報酬など区費の情報をオープンにする」「他地区の区費の実態を知らせる」等の意見が出されました。

⑯⑰の自由記述

実際に、A4十九ページ分の回答が寄せられていました。区ごとに分けて記録されているので、各グループが一区ごとに分担して読み、その中から、参考にできる意見、これはだめだという意見を抜き出しました。

予定時間をオーバーして、二十一時十五分に散会。参加者は三十七名でした。

☆第九回☆(十月九日)

基本目標について

住民アンケートに基づき、講師の浅見さんが、新しいまちづくり計画の基本方針として、五つの柱を示されました(広報注：それぞれに三から四の小項目がありますが省きます)。

- 一、地域コミュニティの再生
 - 二、安心安全の実現
 - 三、地域産業の振興
 - 四、多様な主体の参画と互助
 - 五、地域マナーの向上と環境美化
- いつもの六グループで、追加・変更すべき項目がないか話し合います。区費の問題をどこに入れるのか、公民館建て替えをどこに入れるのか、一と四で内容がかぶっているから整理が必要だ、などの意見が出ました。

キヤッチコピーを考える

五つの基本目標について、もっとわかりやすく、魅力的なキヤッチコピーを考えます。
各グループが考えたものを紙に書いて張り出し、めいめいが各項目について、これがいいと思うものにシールを貼っていきます。各目標で得票が多かったのは、次の通りです。
一、助け合う心で作る 野村

- 二、心が安らぐ町 野村
 - 三、農地を活用した店作り
 - 四、学び育て合う町 野村
 - 五、地域もピカピカ、心もピカピカ
- 二十一時十五分散会。参加者は三十六名でした。

☆第十回☆(十一月十三日)

五つの基本方針

前回の五本柱について、講師の浅見さんが次のように文言を整理されました。

- 一、参加するのが楽しくなるまち 野村町
 - 二、心が安らぐまち 野村町
 - 三、もうかりませ 野村町
 - 四、助けあい学び育てあうまち 野村町
 - 五、地域をピカピカ心もピカピカ 野村町
- それぞれに付随する三・四の小項目について、追加すべき内容を、いつもの六グループで検討します。
- *区費のあり方を考える
 - *見守り隊の充実を図る
 - *区を越えた交流を図る
 - *班単位の行事を行う
 - *八坂神社の有効活用を考える
- などの提案がありました。

今後の進め方

- (Q)は参加者、Aは浅見さんです)
- Q：一年かけてやって、こんなわかりきった項目しか出てこないのか。
A：時間をかけて、みんなで合意したことに意味がある。
- Q：具体的な到達点が見えてこない。
A：皆さんの考えをまとめたらこうなった。
- Q：お題目はできたが、これを誰がやるのか。
A：これに基づいた具体的なまちづくりは、当然、野村の皆さんがやる。
- Q：そうはいっても、来年には役員が替わってしまう。
A：きちんとした方針があれば、人が替わってもやっていく。
- Q：五本の柱ができたのだから、それぞれを担当するプロジェクトチームを作ってはどうか。
A：そういう前向きな提言がほしかった。
- 最後に、この五項目全体のキヤッチコピーをそれぞれが提出。いいと思うものにシールを貼って、二十一時半過ぎ散会しました。参加者は三十三名でした。

敬老会

九月十五日(日)十一時、野村町敬老会がアピ力で開かれました。

★開会行事★

司会は岸本美雪さんです。主催者を代表して、女性の会会長・元井せつみさん、萬浪区長からあいさつ。

次に片山市長、衆議院議員・藤井ひさゆき氏、県会議員・内藤兵衛氏より来賓あいさつがありました。西脇市内の百歳以上の方は四十名。その方たちを表敬訪問したところ、ある方からいわれました。「スピーチは短く、寿命は長く」と。福井事務局長の音頭で乾杯。食事は豪華な会席膳です。

★アトラクション★

①銭太鼓(女性の会)

「三百六十五歩のマーチ」と「河内おとこ節」が、歌に合わせて披露されました。

②ダンス(スタジオリ)

多可町に拠点を置くスタジオリのダンスです。年齢別の四つのグループに分かれての演舞です。愛らしいものから若さにあふれた力強いものまで、さまざまでした。最後は全員のダンスで締めくくりました。

③うれしの愛あい会

まずは皿回し。メンバーの手に従い、各テーブルで参加者が挑戦します。うまく皿が回った方には、先着二十名に鉢植えがプレゼントされました。

次は認知症予防のための体操。左右の手を別々に動かす体操に、皆さん苦勞しておられました。

最後は踊り。「ズンドコ節」の曲に合わせて「炭坑節」を、みんなで踊りました。



④野々華の会

最後を飾るのは、おなじみの野々華の会です。「今日も笑顔でこんにちわ」「東京音頭」、「河内おとこ節」の曲で「炭坑節」。最後は各テーブルをまわり、参加者も踊りの列に加わりました。

★閉会★

長井副区長のあいさつで、十四時、お開きとなりました。参加者は百二十七名でした。

敬老会を終えて

女性の会会長 元井せつみ

令和になり初めての敬老会が、去る九月十五日に西脇ロイヤルホテルで開催されました。今年も「女性の会」がお手伝いさせていただき、約百名の方に参加していただきました。昭和二十二(一九四七)年に旧野間谷村(現多可郡多可町八千代区)が発祥の地とされ、祝日に認められたのは、昭和四十一(一九六六)年だそうです。

私達「女性の会」も毎年「何をしたら皆様に喜んで帰っていたのか」と、会員皆で相談して準備をしています。

敬老会への出席対象年齢は七十歳以上で、野村町には七百六十名ほどの対象者がいらつしやいます。「敬老会へのご招待です」というのが失礼な様な、若々しく元気で、ご自分の趣味を楽しんでおられる方もたくさんいらつしやいます。

今回初めて来られた方にも大変喜んでいただきました。まだ参加されたことのない方、是非来年はお越し下さい。久しぶりに出逢った人達と食事をし、おしゃべりをしてアトラクションを見て、参加して、大笑いして下さい。そして心も体もリフレッシュして、元気になって帰って下さい。

来年も「女性の会」一同心よりお待ちしております。お力添えをいただきました町役員様始め、各町内会の会長様、班長様、本当にありがとうございます。今後共どうぞよろしくお願ひ致します。

いきいきサロン

十月十九日(土)午後、第八十回ふれあいいきいきサロンが、みらいえて開催されました。司会は六区の高瀬薫さんです。

①振り込め詐欺について

まずは「振り込め詐欺」についての講話、講師は西脇警察署生活安全課係長・吉村正人さんです。

被害は七億八千万！

今年に入って今月までの県内の被害額は七億八千万円です。昨年同時期が十二億でしたから、それに比べれば減っています。

多様な手口

息子をかたつた「おれおれ」詐欺だけでなく、娘をかたつた「わたしわたし」詐欺もあります。警察官、銀行員に加え、デパートや電器量販店の店員を名乗るなど、さまざまな手口があります。

最近増えているのが、身に覚えのない料金を支払え、という架空請求です。市内でも百二、三十万円をだまし取られた例があります。

また、警察官を名乗る男性から「あなたの銀行口座が詐欺に使われている。変更手続きのためにカードを預かりに行く」という電話があり、用意していたところ、たまたまパトロール中の警官が発見し逮捕したということがあります。



西脇市駅付近での出来事です。こんな田舎まで来ないだろう、と油断してはいけません。

だまされたいと思っても... 被害者の半数が「私はだまされたいと思っていた」といいます。相手は綿密なマニュアルに基づき、十分な訓練を受けたプロですから、素人では太刀打ちできません。

だまされないために 一、知らない相手からの電話には出ないことです。そのためには留守番電話にするのがいいでしょう。少しでも変だと思ったら、警察に電話して下さい。それが難しければ、家族や近所の人に相談しましょう。冷静な判断ができるはずですよ。

②コンサートその1 スマイルベル 中年の男女二人と小学生の女の子という不思議な三人組です。聞けば、母娘とその知人という組み合わせで。ギター、リコーダー、ハンドベルなどで「汽車ぼっぼ」「ミカンの花咲く丘」など九曲を演奏しました。途中、ちよつとした手品があったり、女の子が一人で「南中ソーラン」を踊る場面もありました。

③コンサートその2 オカリナ・ユニット オカリナ六人とギター伴奏一人、計七名のグループです。昨年十月に続いでの出演です。「墳墓の宿」に始まり、「北上夜曲」「夜明けのスキヤット」など九曲。その間、楽器の紹介があったり、十月・十一月生まれの三名の方に「ハッピーバースデー」の歌がプレゼントされました。アンコールの「ふるさと」は、参加者全員で唱いました。十五時半、田中副区長のあいさつでお開き。

参加者は三十六名でした。

町内会訪問 第六回 六区

十月二十日(土) 十六時、六区の役員さんと
緑風台公民館でお会いしました。

●就任に当たつてのいきさつ

町内会長・高瀬盛好(しげよし)さん(以下、盛と略します)・我々二人が最後に残った、ということですね。
副町内会長・高瀬薫さん(以下、薫と略します)・次期役員になる方が集まったのですが、次々に「私はこの役をします」という形で決まっていって行き、最後に三役が残りました。

副町内会長・村上龍夫さん(以下、村と略します)・私と高瀬薫さんが副会長をさせていただきます、といったので、高瀬盛好さんが自動的に会長に決まりました。
村・何時間もかかると聞いていましたが、三十分で終わってしまいました。

(広報注:六区は、三役とは別に、会計と配布物担当の総務という役員があるそうです)

●やってみて

盛・仕事をしていますので、やっぱり大変です。特に最初の二ヶ月は会社の方も忙しかったので、皆さんに助けていただきました。

薫・確かに大変です。何とか昼間は動けるので、公民館へ配付物をお願いして、行く役を引き受けています。

村・仕事をしていますので、できる範囲のことにはしたつもりです。お互い助け合ってください。ここまで来れました。

●よかったこと

盛・地域の人と知り合いになりました。
薫・長く住んでいても隣近所しか知らな



かったのが、地域全体がよくわかるようになりました。
村・行事の流れが把握でき、一つでも多く参加しようという気持ちになりました。納涼祭の実行委員会にも入り、多くの人と知り合いになれたのは、大きな財産です。

●大変なこと

盛・小・中学校の行事の案内がよく来ます。入学式・卒業式は平日なので、仕事を休んでまでは行けません。
薫・時間を取られることです。公民館へは週二回くらい行っています。その分、情報収集もできますが・・・
市役所との折衝も、もっぱらほくがやっています。

村・仕事をしているので・・・まちづくりの会議が十九時からの時は大変でした。人権の役員も兼ねているため、時間を取られることが多かったです。

●六区独自の取り組み

盛・納涼祭(夏まつり)と新春登山です。どちらも二十年以上続く行事です。登山参加者は、百人を超えていると思います。今年は百個用意したカップの汁粉が足りませんでした。町外からの参加もあります。また六区独自の老人会・緑寿会も活動しています。

村・今年の総会で、納涼祭をやめると提案したら大紛糾し、二十二時を過ぎました。実行委員会方式にしたことで、やりやすくなったと思います。一、二年で交代する役員にとつては、大きな負担でしたから(広報のむら第九十七号参照)。

薫・新春登山も、始めた頃はみんな若かったもので、山の上で餅を焼こう、ぜんざいや味噌汁を作ろうと、どんどん盛り上がりました。元日早朝の話ですから、準備は大晦日にやらねばならず、それも大きな負担になっていたと思います。

盛・当時は山で火をたくので、消防署の許可を取る必要がありました。火の後始末も大変でした。今年にはカップに入ったインスタントの汁粉を持って帰ってもらうことにして、負担を軽減しました。

●課題と問題点

盛・高齢化です。開発から約四十年、三十歳前後で入居した人が、それだけ歳を取ったということですから。空き家、独居世帯も増えつつあります。以前は病院の社宅として借り上げられた家もあったのですが、今はなくな

りました。

村・人権の会議で、六区の高齢化率は三十九・六パーセント、野村町内で一番高いと聞き、ショックを受けました。盛・災害が起きた時は小学校へ避難するわけですが、ここからは結構遠く、高齢者には大変です。

村・秋まつりのことも神輿にご祝儀をいただくのですが、道路まで降りて行けないから取りに来て、といわれる方もあります。

盛・鹿の問題も深刻です。家庭菜園はもちろん、花も食べ尽くされてしまいます。

薫・イノシシも出ますよ。
村・以前は犬を外で、放し飼いに近い形で飼っている方がありました。その犬が吠えるので、鹿が恐れて来ませんでした。それがなくなったので、今は鹿のやりたい放題です。

薫・その頃は犬の鳴き声がかかったのですが、今は静かで、鳥の声、鹿の声がよく聞こえます。

盛・鹿用の防護柵が作れないかと、野村町経由で市に相談したのですが、数百万もかかる費用の半分を地元で負担せよ、といわれたら、とても無理です。農業被害の防止なら補助金が出るそうですが、家庭菜園ではねえ。

●自慢の景色

盛・冬の早朝、裏山に登ると見える雲海です。その中から上る日の出も素晴らしいですよ。
村・大池の景色です。

●最後に一言
盛・次の役員の方々もがんばってやって下さい。

薫・一生ここに住むと思うので、楽しくやって行きたいですね。
村・特にありません。



令和元年 野村町 行事カレンダー

*注*その後変更されることがあります。念のためご確認ください。

2020年 1月						
日	月	火	水	木	金	土
			1 元旦	2 公民館休業	3 公民館休業	4 新年互例会 11時
5	6 公民館仕事始め	7 カラオケ 13時半 詩吟 19時半	8 貯筋クラブ 10時	9 パソコン 19時	10 十日戎 8時 貯筋クラブ 10時 野々華の会 19時半	11 毛筆 9時半 茶道 9時半 気功 10時半
12 子ども会とんど大会 9時	13 成人の日	14 カラオケ 13時半	15 常任委員会 19時半 貯筋クラブ 10時	16 パソコン 19時	17 人権定例研修 19時半 貯筋クラブ 10時	18 イルミネーション 撤去 茶道 9時半
19 子ども会資源回収 木工 9時~16時	20 貯筋クラブ 10時	21 まちづくり会議19時半 カラオケ 13時半 詩吟 19時半	22 合同委員会 19時半 貯筋クラブ 10時	23 パソコン 19時	24 貯筋クラブ 10時	25 毛筆 9時半 気功 10時半
26	27 貯筋クラブ 10時	28	29 貯筋クラブ 10時	30 健康セミナー19時 パソコン 19時	31 貯筋クラブ 10時	

2020年 2月						
日	月	火	水	木	金	土
						1 茶道 9時半
2 初午祭 木工 9時~16時	3 貯筋クラブ 10時	4 カラオケ 13時半 詩吟 19時半	5 貯筋クラブ 10時	6 パソコン 19時	7 貯筋クラブ 10時	8 毛筆 9時半 気功10時半
9	10 貯筋クラブ 10時	11 建国記念の日	12 貯筋クラブ 10時	13 パソコン 19時	14 貯筋クラブ 10時 野々華の会 19時半	15 茶道 9時半
16 河川草焼き 木工 9時~16時	17 貯筋クラブ 10時	18 カラオケ 13時半 詩吟 19時半	19 常任委員会 19時半 貯筋クラブ 10時	20 パソコン 19時	21 貯筋クラブ 10時	22 毛筆 9時半 気功10時半
23 天皇誕生日	24 振替休日	25	26 区議会 19時半 貯筋クラブ 10時	27 パソコン 19時	28 貯筋クラブ 10時	29

2020年 3月						
日	月	火	水	木	金	土
1 クリーン作戦 公園清掃2区 木工 9時~16時	2 貯筋クラブ 10時	3 カラオケ 13時半 詩吟 19時半	4 貯筋クラブ 10時	5 パソコン 19時	6 貯筋クラブ 10時	7 いきいきサロン 茶道 9時半
8	9 貯筋クラブ 10時	10 カラオケ 13時半	11 貯筋クラブ 10時	12 パソコン 19時	13 貯筋クラブ 10時 人権定例研修19時半 野々華の会 19時半	14 毛筆 9時半 気功 10時半
15 木工 9時~16時	16 貯筋クラブ 10時	17 カラオケ 13時半 詩吟 19時半	18 常任委員会 19時半 貯筋クラブ 10時	19 パソコン 19時	20 春分の日	21 茶道 9時半
22	23 貯筋クラブ 10時	24	25 合同委員会 19時半 貯筋クラブ 10時	26 パソコン 19時	27 貯筋クラブ 10時	28 毛筆 9時半 気功 10時半
29	30 貯筋クラブ 10時	31				



順番に三役が回ってくる。これがほとんどだと思っていたのですが(うちの区はそうです)、班長会を開き、選考委員を選定、そのメンバーが推薦し三役を決める(かなり重厚)。班長から無理矢理押しつけて決めてしまふ(かなり強引)。軽い気持ちで会に参加したら、役の先取り合戦になり、最後はくじ引きで当たってしまう(要領のいい人の勝ち)。色々なパターンで決められていて、各区の特徴が出ているように思われ、とても面白く読ませていただきました。

ところで十一月二十三日の河川堤防の草刈りに参加しました。夏の草刈りは意外に涼しく、休憩を多めに取ったためか、何とかなりました。しかし今回の冬バージョンはなぜか人が少なく、嫌な感じがありました。

急斜面で足場が悪くスベル。コンクリートが草の中から突然出てくる。大きな穴が開いていて足を取られ、タイヤですべる。太いツタが草刈り機に巻き付く。長く長くきつい作業で、クタクタになりました。

編集後記

広報委員 藤原 忠司